

**【港南区】令和6年第1回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録**

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和6年2月5日（月） 午前10時～午前11時25分 |
| 場 所 | 港南区役所6階 会議室 |
| 出席者 | <p>【座長】 みわ智恵美議員</p> <p>【議員：4名】 山田桂一郎議員、瀬之間康浩議員、安西英俊議員、 田野井一雄議員、</p> <p>【港南区：36名】 栗原敏也区長、高橋功副区長、 小林仁担当理事（福祉保健センター長）、 遠藤寛子福祉保健センター担当部長、 松寄尚紀港南土木事務所長、櫻井清二港南消防署長、 ほか関係職員</p> |
| 議 題 | 1 令和6年度個性ある区づくり推進費（案）について （中山総務課長説明） |
| 発言の旨 | <p>山田議員：地域防災拠点で炊き出しのセットを準備しているようだが、大地震等の災害が発生した時、どのように炊き出しを行っていくのか。</p> <p>中山総務課長：小学校には灯油式かまどセット、中学校にはガスかまどセットがあるため、お湯を沸かしたり、ご飯を炊いたりなど、これらをご活用いただく。</p> <p>山田議員：給食室や家庭科室についても被災時には利用可能と教育委員会から聞いているが、大釜であるため、一般の人には、扱うのが難しい。地元の声として、小学校の建て替え時期になっているので、災害に強くすぐ炊き出しができる給食室の設計について要望がある。こうした要望について、見解を伺いたい。</p> <p>中山総務課長：横浜市防災計画では、「学校に整備されている施設は、地域防災拠点運営委員会が有効に活用するもの」として規定されている。給食室についても「学校給食の実施に支障のない範囲で、被災市民の援助に有効活用する」と規定されているので、発災時には活用していただきたいと考えている。また、学校の建て替えにあたり、教育委員会からは、給食室を含む学校の耐震性は担保</p> |

した上で進めていると聞いている。

山田議員：「区提案反映制度」の対応状況の中で、「区役所へのデジタルコンシェルジュの配置」については、「一部対応」となっているのはなぜか。

曾我区政推進課長：今回、区提案として、デジタルコンシェルジュを区に常設で設置して欲しいと要望した。今後、電子申請などの普及に伴い相談者が増えると予想されるため要望したが、区役所に常設で設置するのは、費用対効果の観点から懸念があるとの返答があった。ただ、デジタル統括本部としても、区民が気軽に相談できる場の必要性は認識しており、まずは現行のデジタル・デバイド対策予算を活用し、相談できる場の創出を行いたいと考えているため、「一部対応」となっている。

山田議員：今回提案したデジタルコンシェルジュ2名の配置を引き続き交渉していくのか、それともデジタル・デバイド対策予算を活用して進めていくのか、今後の対応について教えていただきたい。

曾我区政推進課長：今年度から実施しているスマートフォン相談員の育成を引き続き行うことで、困っている方が身近な人に相談できる仕組みができるため、まずは、身近な場所で相談できる場の創出を行っていききたい。

山田議員：最後に、「交通安全施設等補修事業」について伺いたい。

港南区総合庁舎前の増設されたバス停について、混雑緩和ができたこと喜びの声をいただいている。ただ、夜になると、増設されたバス停は、バス待ちで立っている人が見えづらいため、歩行に少し支障があるとの声をいただいた。明るくなるようライト等を設置して欲しい。

曾我区政推進課長：ライト等を設置することは、費用の面で難しいと交通局から回答があった。バス停自体は周辺施設等からの光で十分視認できることを確認して設置しているが、夜間の時刻表やバスが見えにくいといった課題感はあるため、利用者の利便性に配慮した追加の対策がとれないか改めて交通局に働きかけていきたい。

安西議員：交通局は財政的にも厳しく、ベンチの修繕費でさえ、令和6年度予算において、ほぼ計上されていないため、区としても考えていく必要がある。個人的には、ホームセンターで買えるような簡

易的なソーラーパネルでもいいと思う。それぐらい既存のバス停と増設されたバス停の明るさに差があるので、知恵を絞って検討していただきたい。

また、バス待ちの方の導線については、かなり解消されたが、どのように恒久的にメンテナンスしていくのか。

曾我区政推進課長：現在引かれているバス待ち客用の歩道上誘導線は、交通局との協議検討を踏まえ設置されたもので、混雑時間帯でも整然と並ぶことができている状況である。バス待ちの方が混乱することなく適切に並ぶには誘導線は欠かせないと考えているため、引き続き誘導線の定期的なメンテナンスについて、区としても交通局に働きかけていく。

安西議員：公共工事の平準化について、市が積極的に推進するよう要望し、様々な取組が進められており、来年度からは、管内一円工事まで対象が拡大予定となっている。区としての取組状況を伺いたい。

坂口港南土木副所長：公共工事では、年度内の時期によって工事の閑散・繁忙に大きな差が生じている。土木事務所では、工事の平準化を目的とする「平準化工事」等を、現時点で5件契約しており、本市の公共工事の平準化率目標0.8以上を達成できるよう計画的に取り組んでいる。令和6年4月からは、働き方改革関連法による時間外労働の上限規制が建設業にも適用となるため、引き続き、土木事務所として平準化に努めていく。

安西議員：担い手育成について、先日1月13日に野庭地区で開催された「新春お正月フェスタ」に参加したところ、野庭町出身の大学生らによるまちづくりグループ「ヒカリノバ」が地域のまちづくりに貢献していこうと積極的に取り組んでいる姿を目にした。こうした若い人たちの活動をサポートすることが、将来の地域の担い手を育てるために重要だと感じた。そこで、若い担い手となる人を育て、活かしていくことへの想いについて区長に伺いたい。

栗原区長：地域活動の担い手不足や高齢化が長年の課題になっており、若い担い手となる人を育て、活かしていくことは重要だと考えている。「ヒカリノバ」の代表の方に話を聞くと、自分たちの育った街で手伝いをしたい、という想いを持って参加しており、まさに地域の担い手となり得る存在だと思った。令和6年度予算の中で

は、港南区地域力アップ補助金について、青少年等の新たな担い手を取り込む事業にも対象を拡充するなど、若い力の発揮に向けた事業に予算をつけている。また、港南区子育てサイト「ここなび」を活用し、地域の情報を若い子育て世代に発信し、地域と若い子育て世代を結ぶことで、将来の地域の担い手を育てていけるような取組も行っていく。

安西議員：デジタル区役所「モデル区」としての実績を今後、全市展開していく中で、得たノウハウをどのようにまとめていくのか伺いたい。

洲崎デジタル統括本部デジタル・デザイン室担当課長：ソリューションをただ展開していくことが全市展開だとは思っていない。モデル区で実証として取り組んだ中で得られた課題や、こういう風に使ったら効果が上がった、区役所だけで行うにはこういう課題があるなど、最大限に効果を発揮できるよう関係局と調整を進めていきたい。また、窓口体験調査の中でもあった通り、取組を行った中で気づきが非常に大切だと思う。すぐに抜本的に変えられないものもあるが、市民局を中心に区役所の在り方検討も進んでいるので、その中の議論に生かし、区役所の中長期的な変化にも繋がりたいと思っている。

曾我区政推進課長：区の職員で話し合いを重ねていく中で、単にデジタル技術を導入するのではなく、業務のプロセスを可視化し、どのような技術が必要となるのかを見極めることの大切さに気づいた。

また、取組を継続していくためには、ルールの作成や導入過程の明確化、研修や相談など職員へのサポート体制が必要であると感じている。そうした点をしっかりとまとめて、全区展開に寄与していきたいと考えている。

安西議員：共有するためのプラットフォームを確立するかが大切なので、そこで止まらず進めて欲しい。

続いて、備品整備等による本部機能強化について、防災用タブレット導入及び防災公用車の導入とあるが、それぞれ、どこに、誰が、どう使用する予定か説明をお願いしたい。

中山総務課長：まず、防災用タブレットについては、災害時、区役所職員が、避難場所や災害現場等の外出先で使用することを目的に導入

する。避難場所開設マニュアルや地図などの情報をあらかじめタブレット上に保存しておき、災害時にはそれを持ち出すことで、複数の紙マニュアルを持ち歩く必要がなくなり、現場写真等を共有する際にもスマホよりも大きな画面で確認することができる。ペーパーレスの観点からもメリットがあると考えている。

また、防災公用車は、災害時の現場確認や避難所への物資輸送をはじめ、区役所職員が災害時に機動的に動けるよう、防災専用車両として導入する。港南区内は狭い道も多く、また大きな荷物を載せることや悪路を走ることも想定されるので、四駆の軽自動車バンタイプの導入を予定している。

安西議員：日常はどう使用するのか。

中山総務課長：崖の確認で現場を回ったりするなど、災害時以外にも稼働させていく。

安西議員：脱炭素に向け、電気自動車の四駆ではないのか。

中山総務課長：災害時は、電気が使用できないことも想定されるため、ガソリン車を導入する。

瀬之間議員：「こどもが遊びながら楽しく学べる防災啓発パンフレットの作製・配付」とあるが、どのようなものを作製するのか、どこに配付するのか。

中山総務課長：現在、若年層への啓発パンフレットとしては、「港南区防災ガイド」小学生編及び中学生編があるが、さらに幼い頃から防災を身近に感じてもらいたいと考え、未就学児をターゲットとしたパンフレットを作製することとした。内容については、小さなお子さんにもわかりやすく、親しみやすいものとするため、ゲーム感覚で楽しんでもらえるパンフレットとする。具体的には、発災時に間違った行動をしている人たちの絵の中から、机の下に隠れる、頭を守るなど、正しく行動している人を探し出す絵本のような形をイメージしており、保護者の方と楽しく学んでいただきたいと考えている。配付先については、保育園を中心に予定している。

瀬之間議員：「港南区子育てサイト「ここなび」を活用し、将来的な担い手づくりに向けて若い世代へ身近な地域情報を発信」とあるが、具体的にどのようなものをイメージしているのか。

岩元地域力推進担当課長：地域行事に参加している子育て世代にインタビューを行い、体験記事を作成して、港南区子育てサイト「ここなび」に掲載する予定としている。掲載記事の頻度は月1回程度を考えており、若い世代に地域活動の良さを知っていただき、関心を持っていただくことで、将来の担い手育成につなげたいと考えている。

瀬之間議員：「区役所1階区民ホールにて、区民が集い楽しめるよう、施設のポテンシャルを発揮できる場の創出」とあるが、具体的にどのようなことを行うのか。市庁舎のアトリウムは人気で予約待ちの状況が続いていると聞いている。

中山総務課長：市庁舎アトリウムの規模まではいかないが、港南区役所の1階区民ホールは、動線上、手続きに行く際に必ず通る場所でもあり、多くの区民の方が集まる、集客のポテンシャルが非常に高いスペースと考えている。昨年末でコロナワクチン相談窓口が終了したため、スペースを広く一体的に有効活用できる状況になった。これまで実施してこなかったミニコンサートや講演会などの開催、飲食スペースの確保なども視野に入れていく。具体的には、各課が実施するイベントの会場設営や備品調達をサポートし、積極的に活用していきたいと考えている。様々な事例を積み重ね、アトリウムの事例も研究しながら、将来的には、事業者からの手数料など歳入確保につながるような取組も目指していきたいと考えている。

みわ議員：港南区でつくった障害理解啓発のポスターは大変好評で他の地域でも見かけるが、今度の障害理解啓発動画は、区だけで作成するのか。

松月高齢・障害支援課長：既存の障害理解啓発のポスターが好評であるため、そのポスターを動画化し、庁舎内や区内6か所の行政情報スポット、バス車内等での放映を予定している。

みわ議員：「働き・子育て世代を対象とした生活習慣改善事業」とあるが、以前は、がん検診の受診率アップのところで働き・子育て世代に対して様々な場面で検診を進める啓発を行っていたと思うが、具体的な取組内容は今後どうなるのか。

佐藤福祉保健課長：働き・子育て世代の方が高齢になる前に、検診を受診

していただくのが大切だと思う。肺がんの集団検診については、港南区では、二次元バーコードでの予約や一時保育にも取り組んできた。今後、この世代の方々にもがん検診について知ってもらうために動画を作成し、区内6か所の行政情報スポットや、協力いただける場合は、薬局等にも紙媒体、動画媒体等、様々な手法でより効果的に伝わるよう周知を行っていききたい。

みわ議員：行政情報スポットは限られた場所なので、更なる広報の拡大を目指すよう求める。肺がんの集団検診にかかる二次元バーコードでの予約の継続や一時保育の拡大はどう考えているか。

佐藤福祉保健課長：他にも、乳がんの無料のクーポン券を送付する際に、あわせて港南区の肺がんの集団検診情報を入れさせていただく等の取組を行ってきた。肺がん検診については、令和6年度から民間医療機関での実施に一本化されるため、これらについては現制度期間中の取組となるが、働き世代への働きかけは大変重要ですので、引き続き港南区では乳幼児健診や、親子が参加するイベント等でご案内を行うほか、行政情報スポットや区総合庁舎内モニター等で、動画なども活用してお伝えしていきたい。

みわ議員：「省エネチャレンジ港南」とあるが、具体的にどのような取組か。

曾我区政推進課長：各家庭でできる省エネの取組を啓発するキャンペーンで、身近な省エネに対する取組を実践していただいた方へ抽選でプレゼントを配付している。

みわ議員：最後に、「区提案反映制度」の対応状況の中で、「公園施設点検のデジタル化」について、環境創造局が「対応」との回答だが、具体的には何をするのか。

坂口港南土木副所長：港南土木事務所では、区内182公園の点検・維持管理を行っている。これまでは、現地で施設点検や写真撮影等を行い、事務所に戻ってから書類作成・整理を行った後、紙で公園ごとに保管していた。この作業をデジタル化することで、現地において作業が完了することとなり、業務の効率化やペーパーレス化の推進が図られる。デジタル化によるメリットが大きいことから、区提案反映制度で提案した。

みわ議員：タブレットを配布するための予算が土木事務所にあるのか。

坂口港南土木副所長：環境創造局公園維持課とも調整しているところだが、今年度からモデル区として、より使いやすいシステム設計等について協力している。現在、タブレットが1台配布されているので、成果が上がった段階で、全市展開できるよう環境創造局と連携しながら、取り組んでいきたい。

田野井議員：西区と港南区がデジタル区役所「モデル区」として、苦労があったと思うが、よくここまでやってきてくれた。モデル区としての区長の総合的な感想を教えていただきたい。

栗原区長：デジタル区役所「モデル区」として、専任の係長の配置や、デジタル化に伴う予算の重点的な配付等の支えがなければ、ここまでやり遂げる事ができなかった。「モデル区」としての2年間、様々な取組をトライ&エラーで行い、得られたことを18区へ横展開していきたい。

田野井議員：コロナ禍で人の生活の実態が大きく変わり、夜8時になると、車が走ってなく、人も歩いていないため、港南区内には暗い場所が多いと感じる。昔は、向こう三軒両隣で門灯を付けていたが、現在は、付ける方が少なくなっている。確かに電力の問題もあるが、通り魔のような事件も全国で発生していることを踏まえると、もう少し街の明るさを取り戻してほしいと考える。こうした「街の暗さ」の問題をどう捉えているか。

松田地域振興課長：現在、自治会町内会からの申請に基づいて、市民局地域防犯支援課が取りまとめて、全市的に防犯灯の設置について進めている。一方で、すでに設置したものの老朽化が進んでいるものもあり、全市的に予算が厳しく、また新設が難しい状況である。各自治会町内会で優先順位を付けていただいた中から、予算の範囲内でなるべく大きく影響があるところを各自治会町内会と相談させていただきながら、新設等を進めていきたい。

田野井議員：ハンディキャップを持った子どもがその学校に看護師がいないという理由で入りづらいという声もある。要援護者は年齢問わずある。そういった専門職の方が必要とされている中で、ハンディキャップを持った子どもが行きたい小学校に行けないということについて、どう考えているか。

大峡学校連携・こども担当課長：それぞれのお子様によって状況が違い、

| | |
|-----|---|
| | <p>命にかかわる部分もあると思うので、学校と各家庭で個々に相談しており、ニーズをとらえながら、きめ細やかに調整していると聞いている。</p> <p>田野井議員：災害が起きた際に備え、ペット同行避難などの想定も含めたHUG訓練が非常に重要である。HUG訓練のさらなる推進をお願いしたい。</p> <p>中山総務課長：港南区はHUG訓練に力を入れており、区内全ての地域防災拠点にHUGセットを配布している。今年度は、3つの地域防災拠点でHUG訓練を行った。また、令和5年6月に開催した福祉避難所連絡会でも、施設職員の方々にHUG訓練を経験していただいた。ペット同行避難についてもHUG訓練のメニューに含まれている。HUG訓練は、避難所運営について主体的に考えてもらう機会となっていると思うので、今後も様々な場で周知していく。</p> |
| 備 考 | |